

岡山県感染症週報 2013 年 第 34 週 (8 月 19 日～8 月 25 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2013 年 第 34 週 (8/19～8/25) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 33 週 2 類感染症 結核 1 名 (70 代 女)

5 類感染症 ウイルス性肝炎 1 名 (30 代 男)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 名 (70 代 男)

第 34 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 5 名

(O26: 幼児 女 1 名・男 1 名、O121: 幼児 女 1 名、20 代 女 1 名、O157: 幼児 男 1 名)

■定点把握感染症発生状況

○手足口病は、県全体で 124 名 (定点あたり 4.04 → 2.30 人) の報告があり、前週より減少しました。

○ヘルパンギーナは、県全体で 58 名 (定点あたり 1.43 → 1.07 人) の報告があり、前週より減少しました。

【第 35 週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 4 名 (O26: 幼児 女 1 名、小学生 男 1 名、

O157: 幼児 女 1 名、10 代 女 1 名) の発生がありました。(8 月 26 日～28 日)

1. 腸管出血性大腸菌感染症は、第 34 週に 5 名の報告があり、これまでの累計報告数が 48 名となりました。岡山県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。例年 8 月が最も発生報告が多くなりますが、9 月にも多くの発生が見られますので、ひきつづき注意してください。手洗い等を徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. [手足口病](#)は、県全体で 124 名 (定点あたり 4.04 → 2.30 人) の報告があり、前週より減少しましたが、岡山市、倉敷市及び備北地域では、ひきつづき発生レベル 3 となっています。詳しくは『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
3. [ヘルパンギーナ](#)は、県全体で 58 名 (定点あたり 1.43 → 1.07 人) の報告があり、前週より減少しましたが、備北地域では、ひきつづき発生レベル 3 となっています。症状がおさまっても、2～4 週間の長期間にわたり、便の中にウイルスが排出されることもありますので、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋をするなど、感染予防に努めましょう。
4. [風しん](#)は、発生報告はありませんでした。岡山県のこれまでの報告累計は 71 名となっています。全国の第 33 週までの累計報告数は、昨年同時期の約 11 倍となる 13,747 名で、ピークは過ぎたと思われるものの、依然、多数の患者が発生しています。妊婦が風しんに感染して胎児に障がいが発生する「先天性風しん症候群」は、新たに 2 件報告されています。詳しくは『[風しん情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	⬇	★
咽頭結膜熱	⬇	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⬇	★
感染性胃腸炎	⬇	★★	水痘	⬇	★
手足口病	⬇	★	伝染性紅斑	⬇	
突発性発疹	⬇	★★	百日咳	⬆	★
ヘルパンギーナ	⬇	★	流行性耳下腺炎	⬆	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	⬆	★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	⬇	
マイコプラズマ肺炎	⬇	★	クラミジア肺炎	➡	

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少

➡ : 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の増加



: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし

★: 僅か

★★: 少し

★★★: やや多い

★★★★: 多い

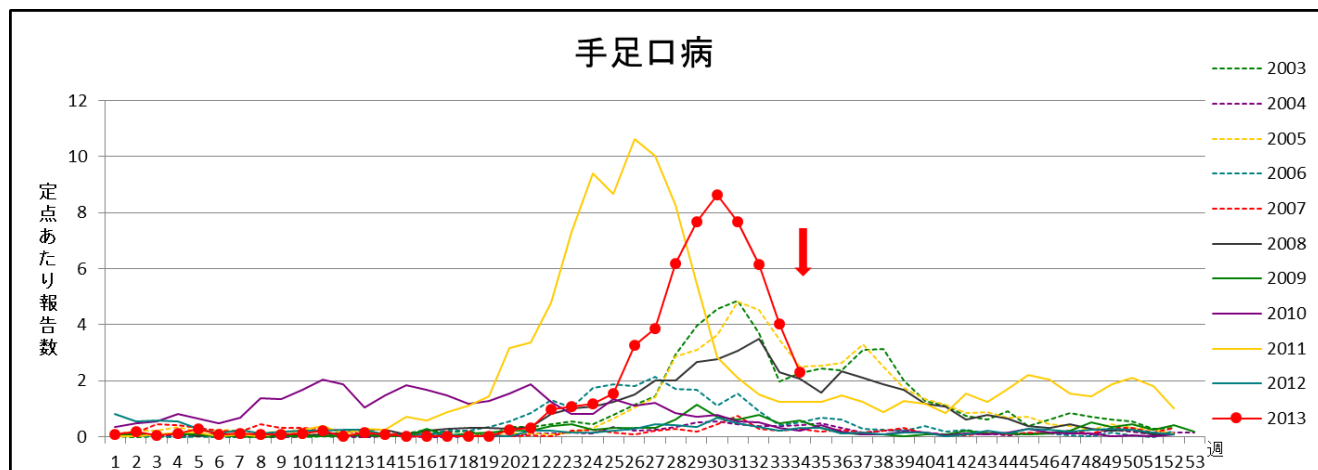
★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

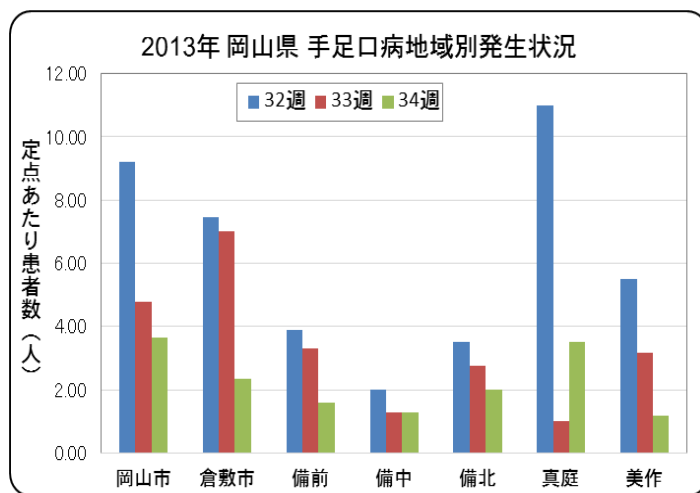
1. 手足口病

岡山県の発生状況グラフ



手足口病は、県全体で124名（定点あたり4.04 → 2.30人）の報告があり、前週より減少しました。地域別では、岡山市（3.64人）、真庭地域（3.50人）、倉敷市（2.36人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山市、倉敷市及び備北地域では、発生レベル3が継続しています。ピークは過ぎたと思われるものの、依然多くの患者が報告されていますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。

全国の第33週の発生状況は、定点当たり5.23人で、新潟県（14.28人）、福島県（10.04人）、長野県（9.06人）の順で報告数が多くなっています。



○手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が多く発生しています。どちらの感染症も、ウイルスに対する特異的な治療法はなく、対症療法が中心となります。また、口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、小さな子供では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながる場合がありますので、注意が必要です。

○保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがい・手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。

○体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

風しん情報

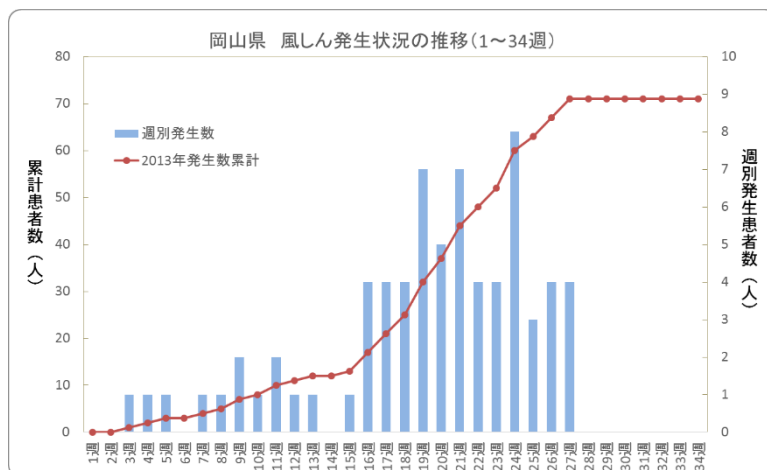
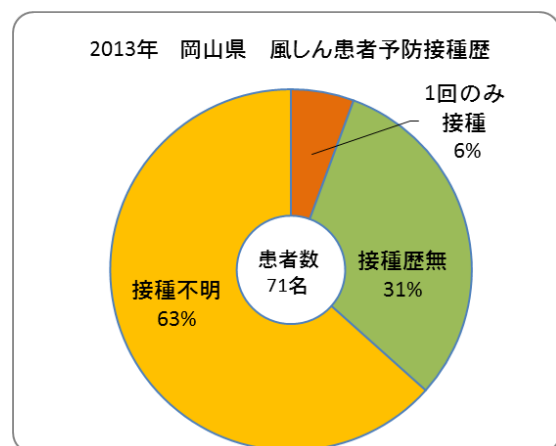
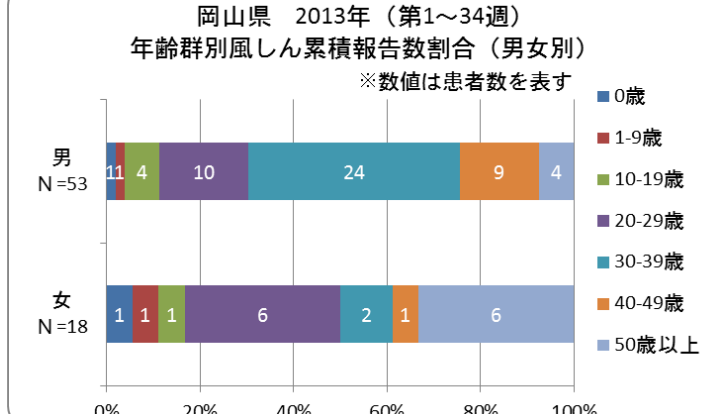
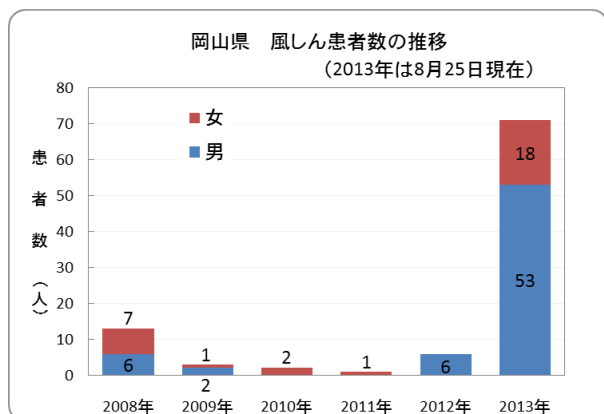
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

今年は、関東地方・近畿地方を中心に多数の患者が発生しています。風しんはせき、くしゃみ等の飛沫により感染します。また、夏休みの時期は、旅行などで人の移動も多くなり、感染の機会が増加します。全身性の発しん、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性がありますので早めに医療機関を受診してください。

[\(国立感染症研究所 風しん Q&A\)](#)

【岡山県の風しん発生状況】

岡山県では、第34週の発生報告はありませんでした。岡山県のこれまでの報告累計は71名となっています。患者は、全国集計同様20～30代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが22名、接種不明が45名、1回のみ接種が4名でした。

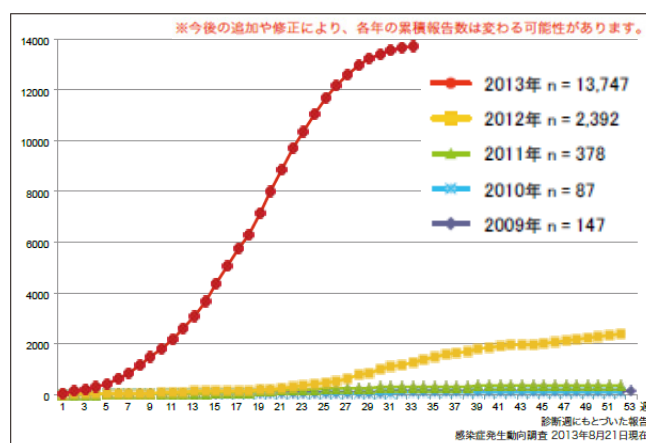


【全国の風しん発生状況】

今年、全国の第33週までの累計報告数は13,747名であり、ピークは過ぎたと思われるものの、関東地方・近畿地方を中心に、依然、多数の患者が発生しています。患者の約8割は男性で、そのうち20～40代が82%を占めています。また女性は、20～30代が56%を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかったか、集団接種から個別接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。

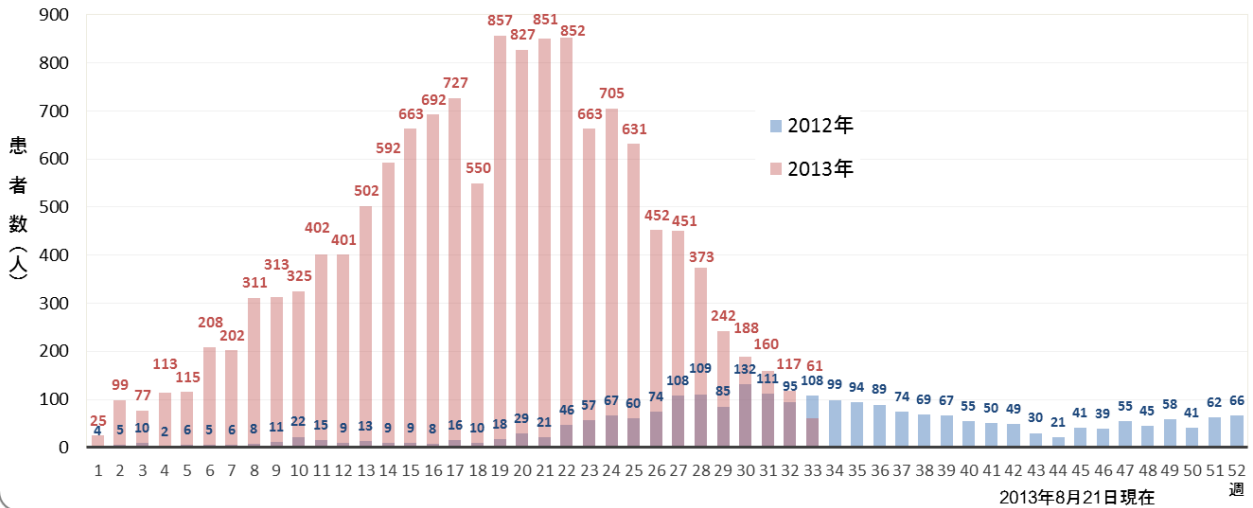
妊婦が風しんにかかり胎児に障がいが発生する先天性風しん症候群 (CRS) は、2012年は5名でしたが、2013年は8月14日までに、すでに11名の発生がありました。

[\(国立感染症研究所 先天性風しん症候群 \(CRS\) の報告\)](#)

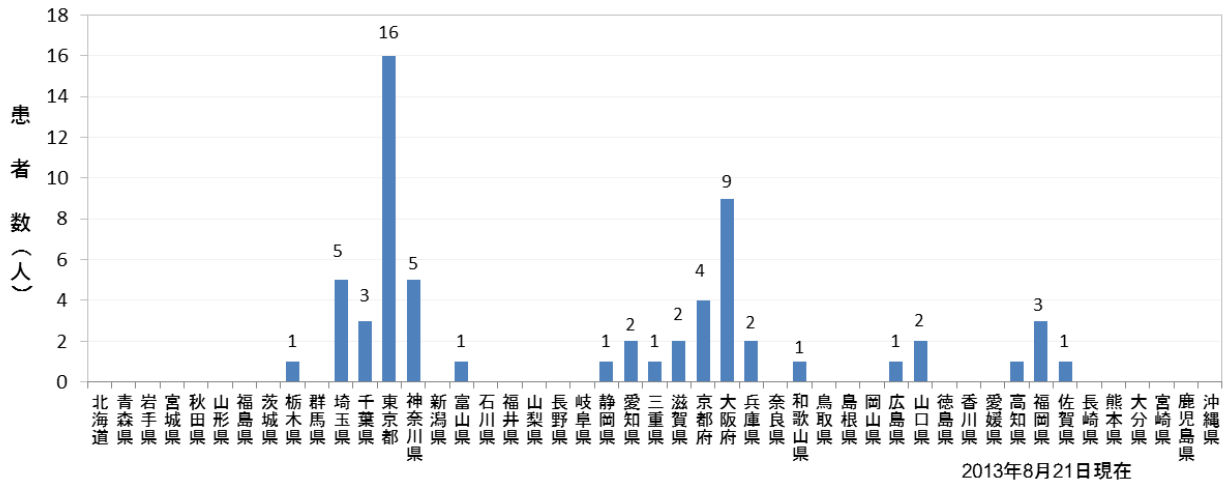


全国風しん累積報告数の推移 2009～2013年 (第1～33週)
国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページより

全国 風しん患者の週別発生状況 (2012年～2013年)



都道府県別風しん報告数 2013年 第33週 (n=61)



【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの有効な予防方法は、予防接種を受けることです。

風しんの定期予防接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は、積極的に予防接種を受けましょう。また、定期予防接種の対象者以外の方でも、風しんの抗体価が十分であると確認ができた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。

風しんの予防接種を受ける場合は、麻しんの対策も考慮し、麻しん風しん混合ワクチン（MR ワクチン）を接種することが推奨されています。5月・6月の任意の予防接種者数が、例年に比べて急激に増加したため、今夏以降にMR ワクチンが一時的に不足することが懸念されていましたが、関係者による前倒し出荷・増産等の対応や任意の予防接種者数の減少等により、今夏の全国的な不足は回避できる見込みです。

[おかやま医療情報ネット](#)から、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2013年 34週 (2013/08/19～2013/08/25)

2013年8月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	—	—	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	4	0.07	3	0.21	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	5	0.09	2	0.14	—	—	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.24	7	0.50	4	0.36	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	246	4.56	91	6.50	49	4.45	52	5.20	12	1.71	21	5.25	5	2.50	16	2.67
水痘	17	0.31	8	0.57	1	0.09	3	0.30	—	—	3	0.75	2	1.00	—	—
手足口病	124	2.30	51	3.64	26	2.36	16	1.60	9	1.29	8	2.00	7	3.50	7	1.17
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	25	0.46	13	0.93	8	0.73	2	0.20	—	—	2	0.50	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	58	1.07	18	1.29	16	1.45	6	0.60	4	0.57	8	2.00	—	—	6	1.00
流行性耳下腺炎	5	0.09	2	0.14	—	—	2	0.20	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	1	0.25	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 34週 (2013/08/19～2013/08/25)

2013年8月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	—	—	—	—	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	5	0.09	2	0.14	—	—	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	0.24	7	0.50	4	0.36	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	246	4.56	91	6.50	49	4.45	52	5.20	12	1.71	21	5.25	5	2.50	16	2.67
水痘	17	0.31	8	0.57	1	0.09	3	0.30	—	—	3	0.75	2	1.00	—	—
手足口病	124	2.30	51	3.64	26	2.36	16	1.60	9	1.29	8	2.00	7	3.50	7	1.17
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	58	1.07	18	1.29	16	1.45	6	0.60	4	0.57	8	2.00	—	—	6	1.00
流行性耳下腺炎	5	0.09	2	0.14	—	—	2	0.20	1	0.14	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	1	0.25	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。
今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第34週 2013/08/19～2013/08/25)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	4	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	-	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	-	-	1	1	-	2	1	2	4	-	-	2	-	-
感染性胃腸炎	246	7	26	38	29	14	17	16	12	9	6	13	26	8	25
水痘	17	-	-	3	3	3	2	2	-	-	1	1	1	-	1
手足口病	124	3	16	50	19	13	7	4	1	-	1	1	2	3	4
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	25	-	15	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	58	2	4	15	13	6	4	3	4	2	1	2	1	1	-
流行性耳下腺炎	5	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

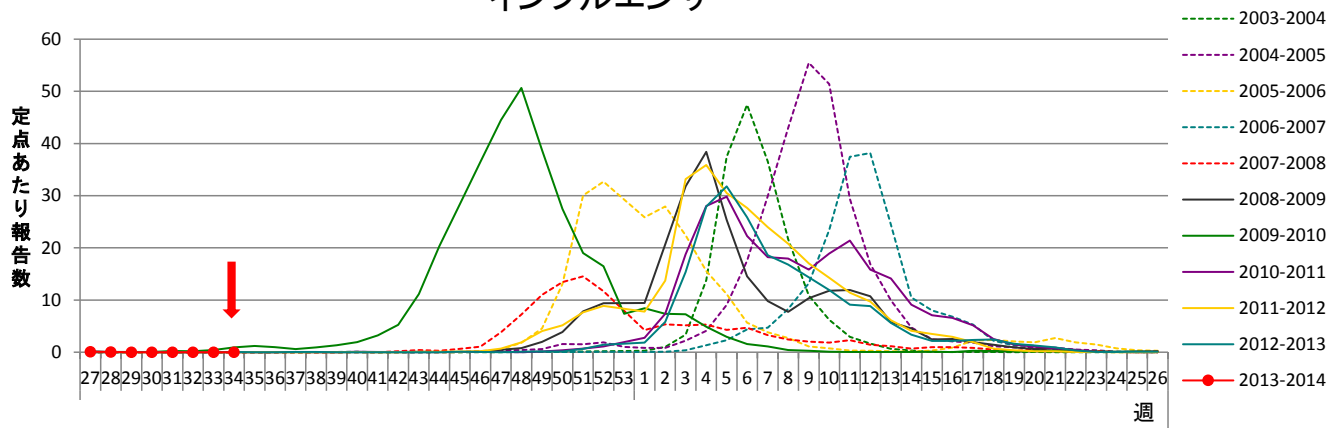
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

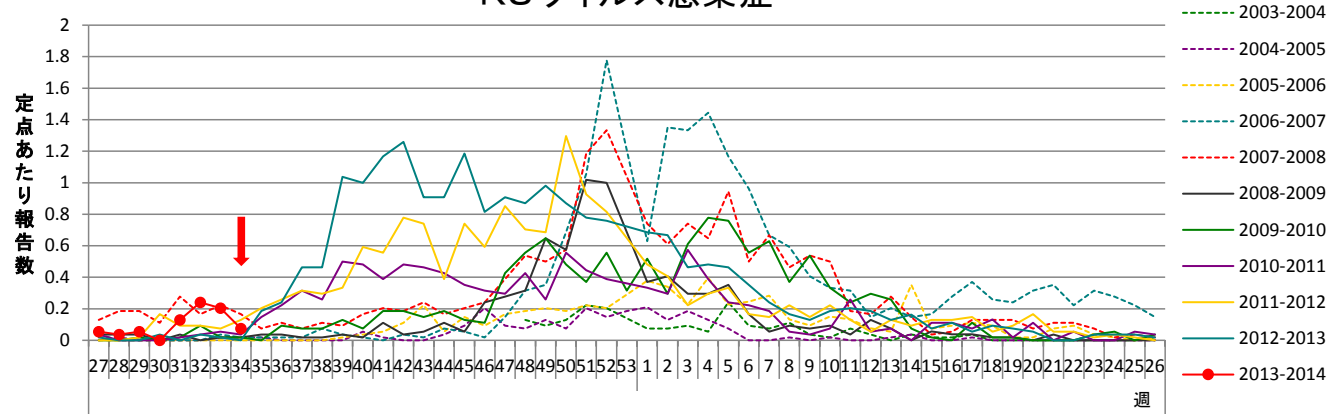
2013 年 34 週

分類	疾病名	2013			2012	2013	2012	2013	2012	2013	2012
		今週	累計	昨年		今週	累計	今週	累計	今週	累計
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病	-	-
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	226	477	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-		-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	5	48
	腸チフス	-	-	1		-	-	-		-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 重症熱性血小板減少症候群 ダニ媒介脳炎 つつが虫病 鳥インフルエンザ 日本紅斑熱 鼻疽 ヘンドラウイルス感染症 マラリア リッサウイルス感染症 レジオネラ症	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症	-	5
	エキノコックス症	-	-	-		-	-	-		-	-
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	Q熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	サル痘	-	-	-		-	2	-		-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	チクングニア熱	-	-	-		-	-	2		-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	日本脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	Bウイルス病	-	-	-		-	-	-		-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	ポツリヌス症	-	-	-		-	-	-		-	-
	ライム病	-	-	-		-	-	-		-	-
	類鼻疽	-	-	-		-	13	29		-	1
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-
五類	アメーバ赤痢	-	8	11	ウイルス性肝炎*3 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 侵襲性肺炎球菌感染症 破傷風 風しん	-	7	7	急性脳炎*4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 先天性風しん症候群 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染 麻しん	-	4
	クリプトスポリジウム症	-	-	-		-	3	1		-	2
	後天性免疫不全症候群	-	8	16		-	-	3		-	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-		-	10	-		-	-
	梅毒	-	3	7		-	2	1		-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	2		-	71	6		-	2

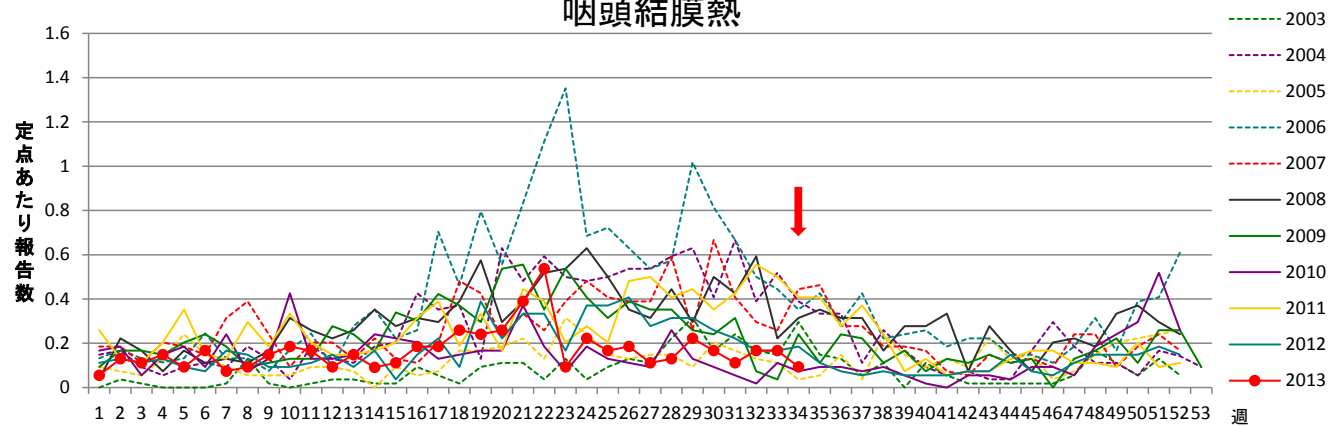
インフルエンザ



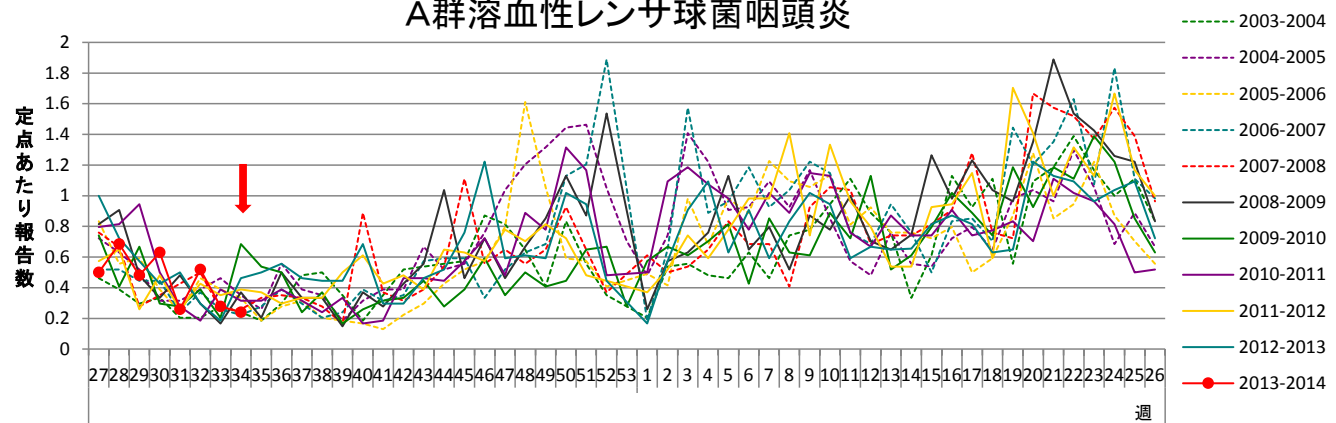
RSウイルス感染症



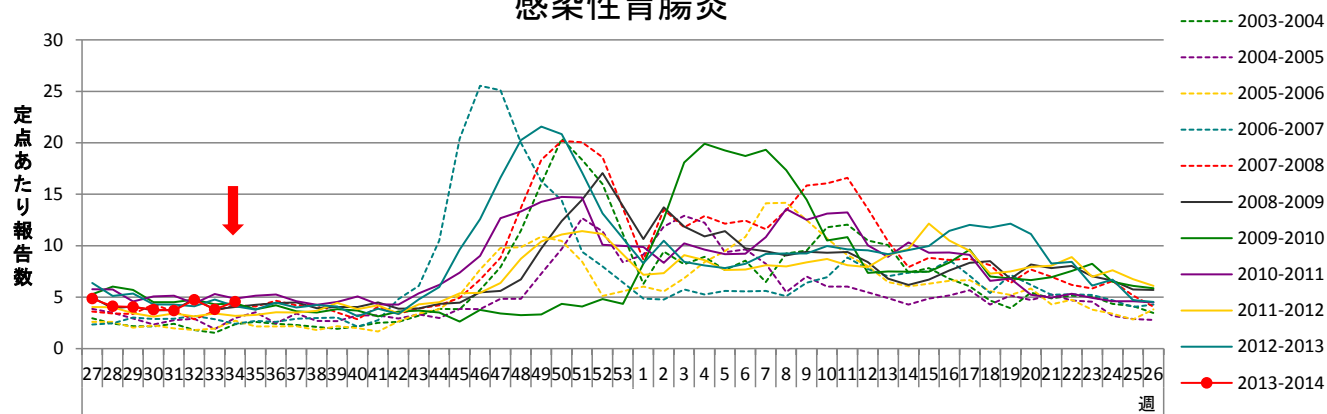
咽頭結膜熱



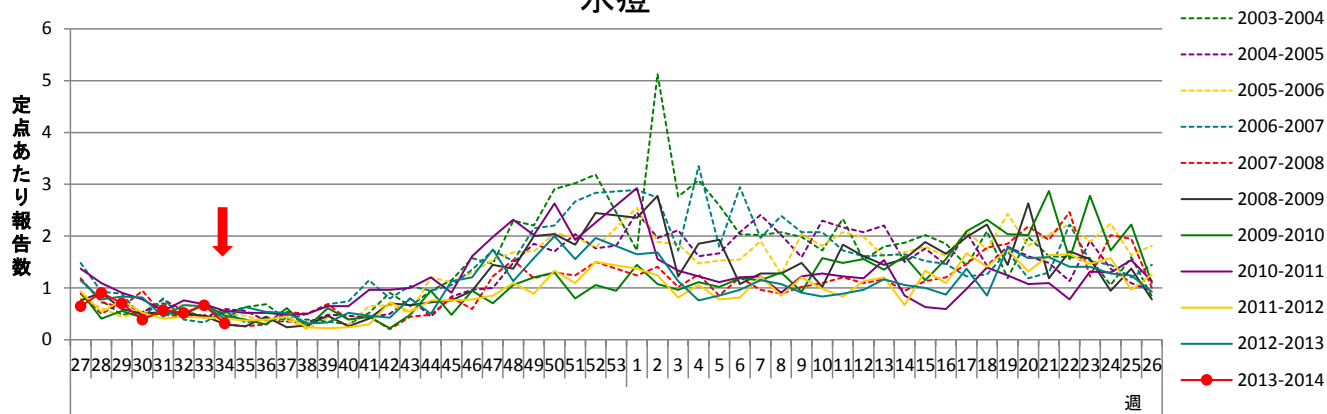
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



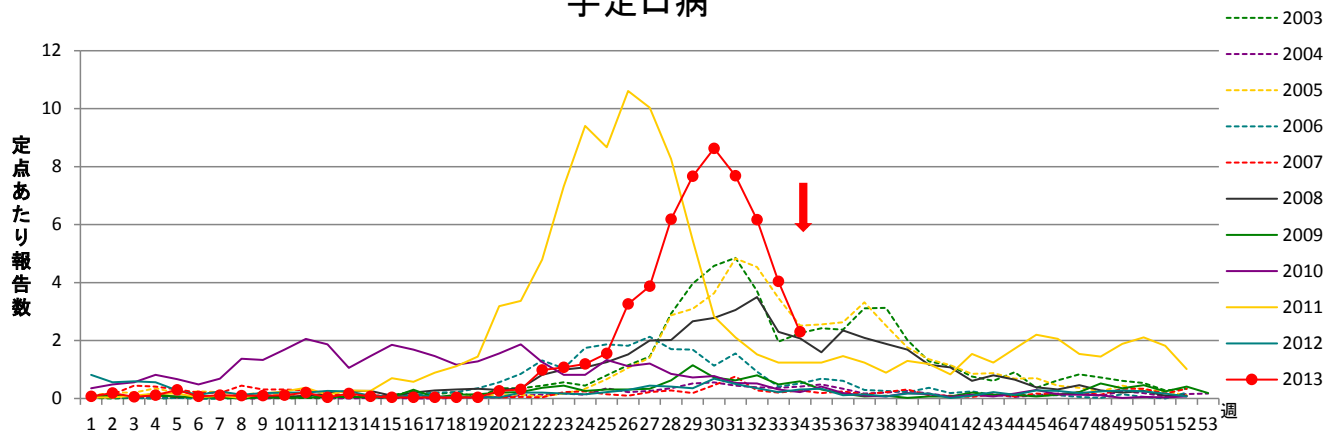
感染性胃腸炎



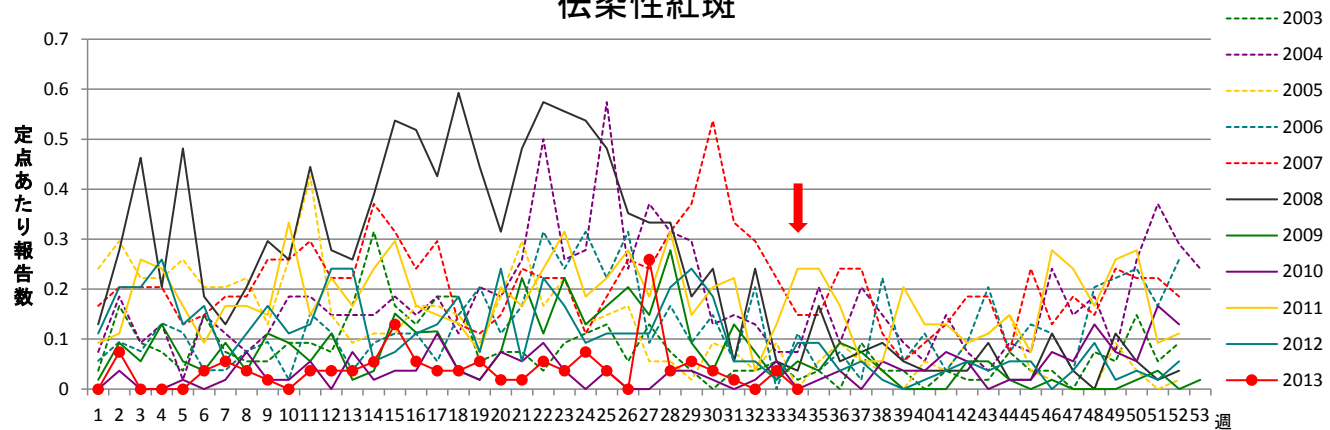
水痘



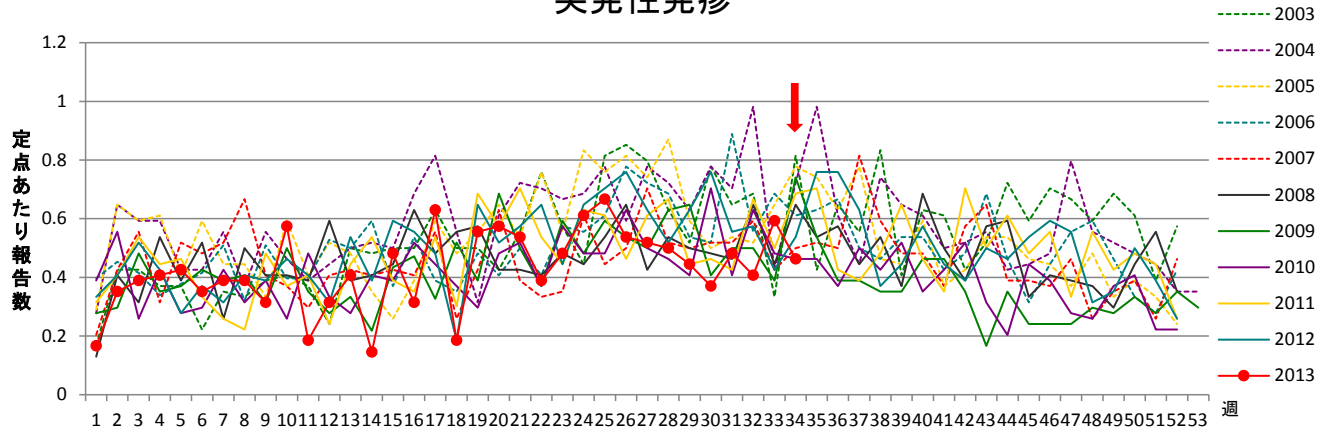
手足口病



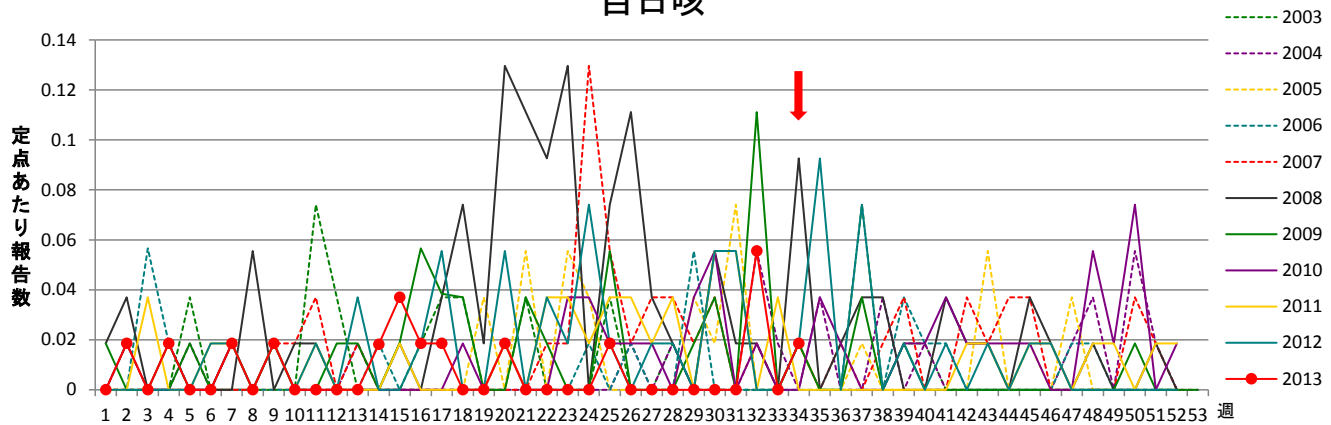
伝染性紅斑



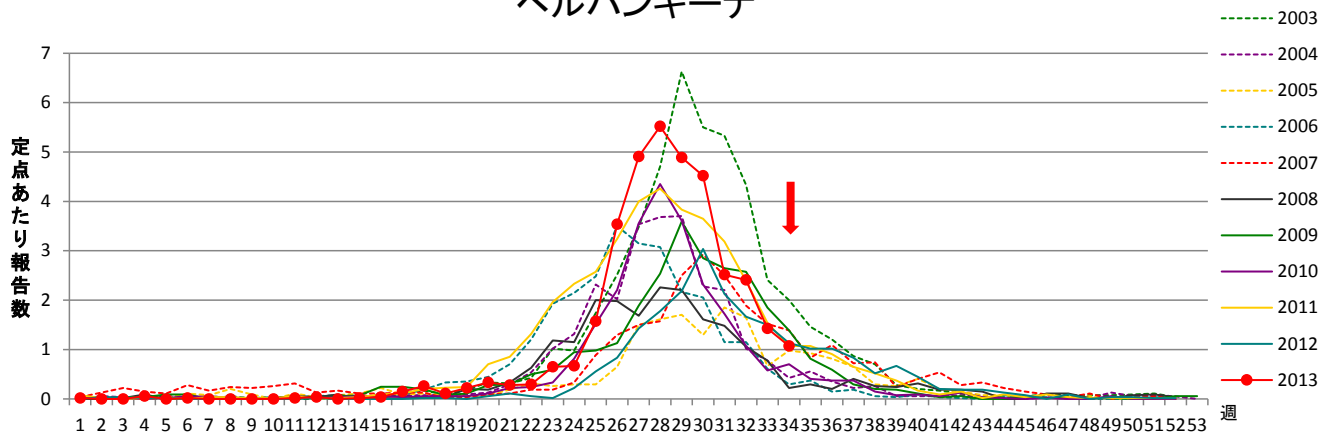
突発性発疹



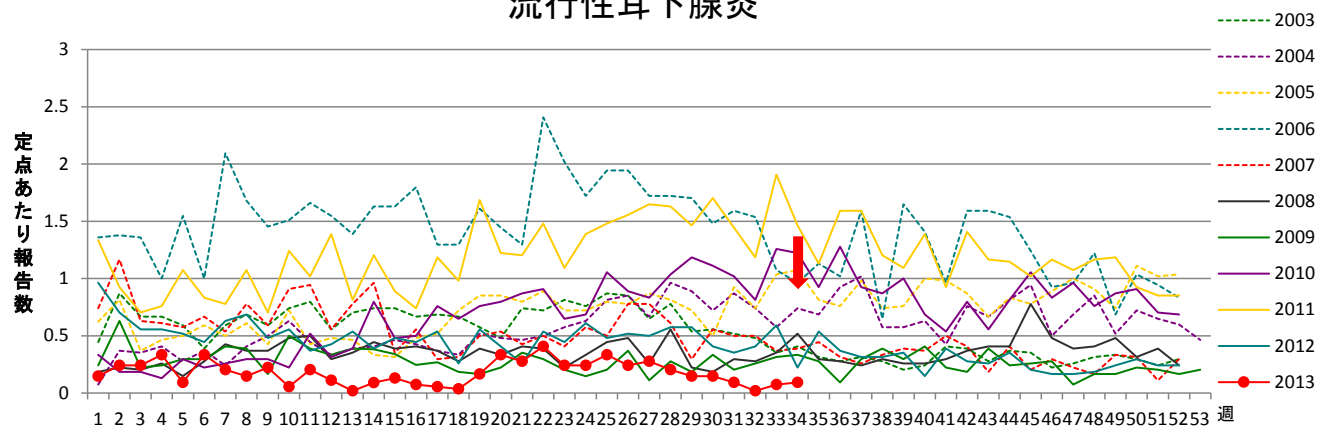
百日咳



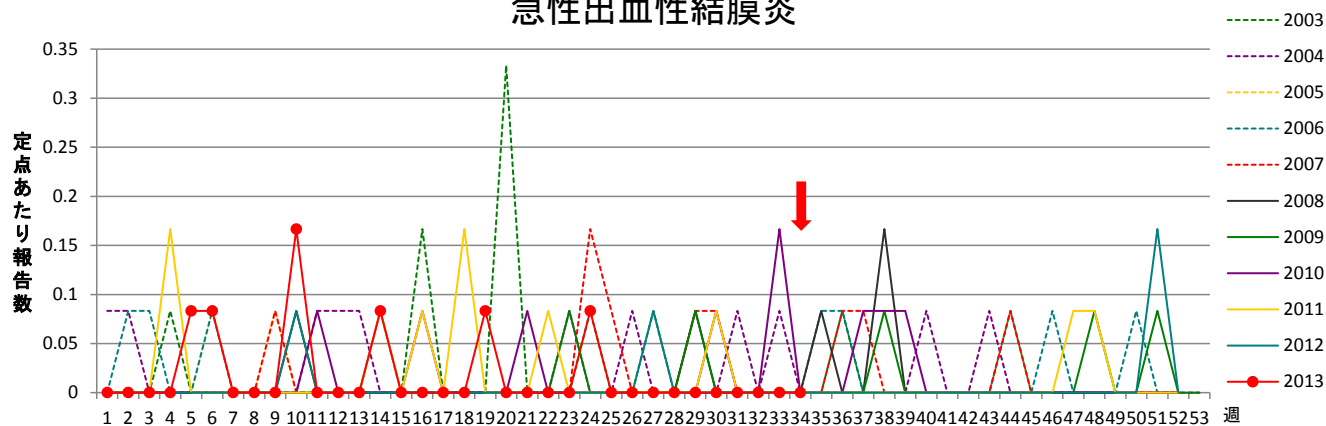
ヘルパンギーナ



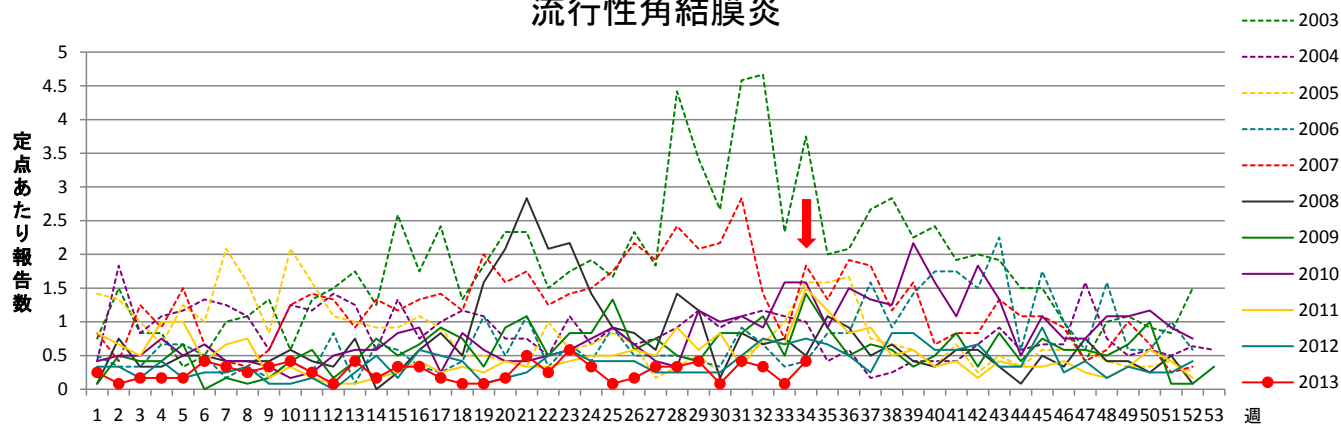
流行性耳下腺炎



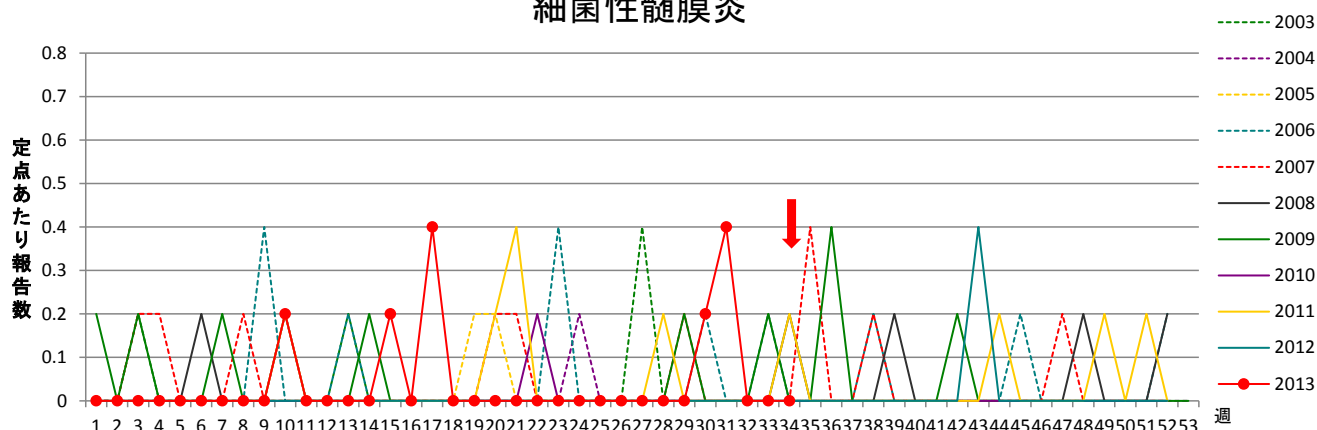
急性出血性結膜炎



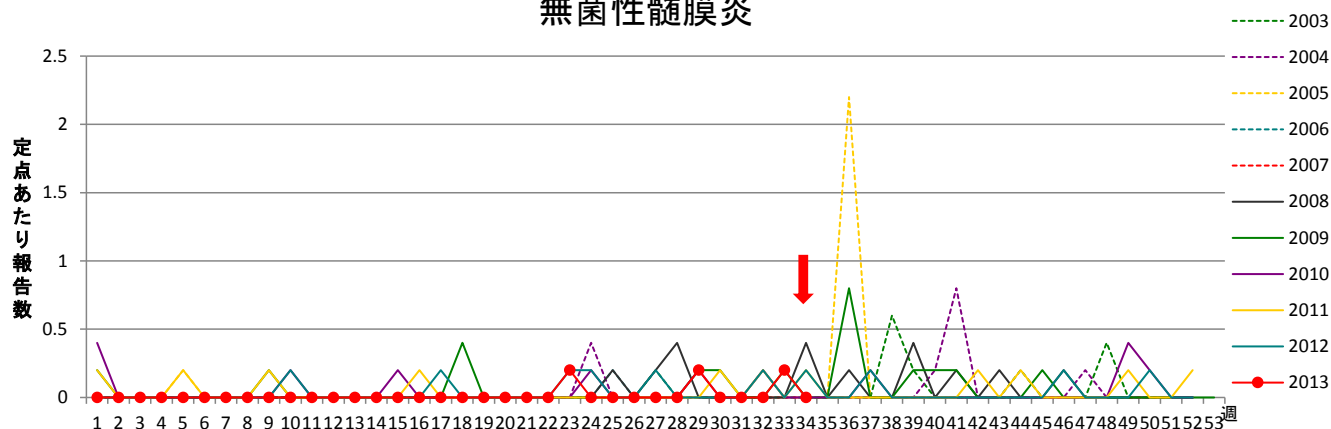
流行性角結膜炎



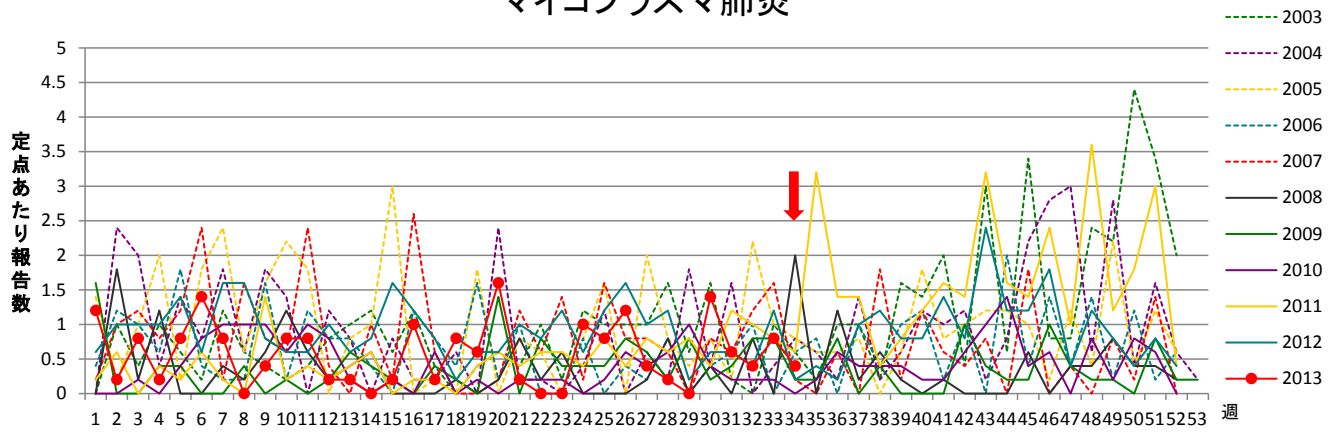
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

